

第22回 第6分科会会議録(概要)		場 所	新宿区区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年5月20日	記録者	【学生補助員】 伊藤幸一、多久慶子
	午後1時00分～午後4時30分	責任者	区事務局(荒井)
<p>会議出席者：36名 傍聴者1名 (区民委員：30名 学識委員：2名 区職員：3名)</p>			
<p>配布資料</p> <p>進行次第</p> <p>第20回第6分科会会議録(概要)</p> <p>区民主体の自治をつくる(大項目説明文)</p> <p>第2回世話人会会議まとめ(概要)及び第4回編集部会まとめ 起草原稿修正案(協働・参画)</p> <p>起草原稿修正案(コミュニティ)</p> <p>起草原稿修正案(自治制度)</p> <p>起草原稿修正案(地域安全)</p> <p>起草原稿修正案(多文化共生)</p> <p>進行内容</p> <p>1 開会</p> <p>2 世話人会・編集部会の報告</p> <p>3 起草原稿(修正案)の説明及び質疑</p> <p>4 事務連絡</p> <p>5 閉会</p> <p>会議内容</p> <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員</p> <p>1 開会</p> <p>: 今日を含めて、あと3回です。本日は花園、来週は四谷の方でお祭りがあるので、人が集まることは、なかなか難しいかもしれません。これから第22回第6分科会を始めます。世話人会と編集部会の報告を土屋先生、お願いします。</p> <p>2 世話人会・編集部会の報告</p> <p>: 5月14日日曜日に第2回世話人会がありました。配付資料を基に説明いたします。なお、この資料の5ページ以降は編集部会の概要になっています。</p> <p>まず基本構想審議会の設置について事務局から説明がありました。我々、区民委員、学識委員共に区民会議委員の委嘱期間は、今年11月末でしたが、基本構想審議会設置に伴う審議会と区民会議との意見交換のため、委嘱期間が19年1月頃まで延長の可能</p>			

性があるということでした。また、各分科会の区民委員から1名ずつ審議会委員に推薦を頂きたいという要請がありました。

編集部会からの報告ですが、これまでの経緯、大項目の考え方、今後のスケジュール、今後の課題について、編集部会長の窪田先生からご説明がありました。“最終提言は分科会の体系通り、6本柱でつくること”を第6分科会として三田先生と伊藤先生に推し進めて頂きましたが、最終提言のスタイルは編集部会に一任することになりました。後程説明いたします。そして、提言の方法が確定しました。6ページに詳細があります。

上から3つ目、大項目は以下に決定とあります。これまで「区民主体のまち」は、最後でしたが、自治制度を主とした「区民主体の自治をつくる」として提言の頭にくることになりました。2番目に「人をはぐくみ、こころ豊かにらせるまち」という我々の多文化共生や安心安全なまちをつくるとか、第1や第2分科会の提言が主にここに入ります。3番目に「(仮題)土地の記憶の再生と環境の創造」で第3や4分科会がメインです。最後の4番目「楽しもう新宿」は主に第5と第3分科会の中項目が入っています。今週は大項目の詰を学識とリーダーで起草修正し、来週の編集部会で他分科会と全体的な調整や文言の確定を行った上で提出します。報告は以上です。

：只今、土屋委員からご説明がありましたが、6ページにある通り4つの柱で進め、その冒頭に第6分科会担当の自治制度がくることになりました。ご存知のように第6分科会としては、行政の分野を網羅していること、基本構想の分野別にも対応していること、そして区民の意向を反映するために最もわかりやすく伝えるには、必然たる6つの柱であると何度も主張してきた。しかし、これまで4つでやってきたのだからいいじゃないかとか、6つでやると行政の縦割りを助長するとか、意味不明なことばかりでした。しかし、行政枠が「組織」であることからして「縦割り」なのでして、それをいかに横割にするかは、全く別の議論であって、4を6にすることが縦割りにするとかではないのですが、それでも多数派の意見に押し切れ、このような結果になりました。

基本構想審議会で構想を練る時点で、再び分け方の問題が出てくるので、そこで我々の問題が蒸し返されることになるでしょう。先程あったように、第6の学識を代表して、基本構想審議会に参加することになるので、そこで何とか第6とのパイプになっていきたいと思います。来年1月頃に審議会と区民議会の意見交換会がありますが、そんなに待てませんし、事後報告になってしまう。意思決定段階から参加できなければ意味がないので、これは第6発でフォローアップしていかなばならないと思います。せっかく、ここまで区民の熱い想いが形になってきたのですから、ここで選ばれるもう1名の代表と学識が何とかして基本構想審議会に伝えていかなばならないと思います。意に添えなかったことをお詫びすると共にフォローアップのお願いを申し上げ、これを報告に替えさせていただきます。

：ありがとうございました。前回の運営委員会で先生のお話にあったフォローアップについてご提案がありました。次回以降、時間があれば話し合っていきたいと思います。次は、起草原稿発表及び質疑応答に入りたいと思います。資料の見方を事務局からご説

明をお願いします。

：前回までに起草原稿として皆様にお示したものを、編集部会の書式などの方針と、運営委員会での「協働・参画」に対する若干の意見を網羅して修正原稿を作りました。なお、「区民主体の自治をつくる」という資料がありますが、大項目の冒頭に置くように、土屋委員がたたき案として自治制度、協働・参画、コミュニティの部分をまとめてくださいました。

はじめに「協働・参画」から審議に入って頂きますが、資料は2種類の様式になっており、後半部分が「更新された原稿」、前半は「新旧対照表」として、左側に前回までの原稿を記載しています。今回は3分科会からの提案が入っていて、その後、3分科会のもとと分散しました。右側は削除部分と追加部分があります。(アンダー線部分)次第に見方に慣れていくと思いますが、経過を追って事務的にまとめました。

前回までの原稿をお読み頂いているという前提で、今日はフレーズや単語の微調整をして、各テーマ30分ずつで区切り、原稿をなるべく固めていきたいと思います。それでは、藤原委員から協働・参画の説明をお願いします。

3 起草原稿(修正案)の説明及び質疑

〈協働・参画〉配付資料

：第5班藤原です。起草案について先生方にはご配慮と調整をして頂き、第3分科会と見事分離しました。ありがとうございました。

まず、3ページの「言葉の定義」ですが、先日、これは言葉の定義ですか?という意見がありました。私は「言葉の説明」とお願いしましたが、定義になりました。3つの協働、共同、協同について左から右へと分かりやすくなったので、ここを定義とするか簡単に説明とするかを後ほど検討したいと思います。7ページに、参画、協働、協働・参画とありますが、「参画・協働」という考えを確立しました。参加とは、参画とは、ということで、やはり文章の流れよりは、きちんと分けることが必要なので立て分けました。8ページでも、区民会議の成果であるということで立て分けました。10ページは大切なところなので、を削除しまして、継続可能な協働環境を築いていくためには、そして 協働の役割分担については、P D C Aサイクルを設け、コミュニティについて分けました。、 は削除しました。以降は、私たちが検討してきたことをまとめ、下線部を修正で付け加えました。第3分科会から多くの提言がきていましたが、私たちの話し合ってきたことを集約してこのような形になりました。

以上ですが、本当は参画・協働ですが、ぜひ第6で話し合ってきた定義をまとめていくということで、皆様の熱い想いが伝わりました。これから新宿区の参画・協働の基本となる協働になっていくので、とても大事です。それでは審議をよろしくをお願いします。

：ありがとうございました。何か質問、意見、提案がございますか。

：4ページ中段、行政の計画にはP D C Aのサイクルが入っていない、という表現が

ありますが、実は17年度の行政評価実施結果報告書には入っています。入っていないと言うと「入っています」と言われかねない。本当の問題は、評価がA、B、C、Dとあり、これは行政が自己評価をやっているものです。Aは、目標以上の成果をあげている。Bが、計画通りまたは概ね計画を推進し、予定した成果をあげている。Cは、法律改正により計画そのものの見直しを求められている。要は、自己評価にCというのはない。一般的に言えば、目標を達成し得なかったものがCです。そして、小さな字で書いてあるので見落としがちですが、Cというのは自己責任ではなく、法令等の改正で対象外になったものです。だから、ここで評価が入っていると書いてありますが、先の点などを言及した方が具体的かなと思う。

：ここで協働・参画が話し合われたように、PDCAも行政では以前からやっても浸透度が低いと思う。ここは再検討します。

：提言して行政サイドから「既にやっています」という回答が出たら、前に進まないの、皆さんが思っていることを具体的にここに出さないといけない。

：評価制度はあるが、評価人が行政で民間ではない。そういう問題が起きている。区民会議からの視点で、評価制度があっても評価を見る方からすれば、ないということを出した文言を先生と話し合ってみます。

：地区協議会の部分で、「NPO、ボランティア、市民団体等の公募を多くする」とあるが、協議会メンバーを調べたら、既になっていた。NPOや公募の方が20名近く入っている。もし書くのならば具体的に問題点を掘り下げて書いていかなければいけない。協働の意義云々については、協働は区民主体であり、区はその活動に協力支援するところがあるが、協働支援会議を区はやっている。「共同事業、助成事業の現状を広報に公開する」とあるが、HPを見ると公聴会などやっている。書かれた意味はもっと深いものだと思う。重箱の隅のようなことを沢山言ってしまうと申し訳ございませんでした。

：では、細くの文言を検討して次回に報告できるようにします。先程の地区協議会については、私も地区協議会に参加しているが、去年6月までに原案を策定し、地域の協力のもと協働という形で10月に発足しました。まだまだ徐々にやっているという段階なので、きちっと文言を整えたいと思う。

：現状・課題のところに「協働・参画」、後ろでは「参画・協働」、頭がどっちかということ。こだわるなら、変えた方に統一しませんか。

：前回申し上げたとおり、参加があって、参画があって、協働なので、「参画・協働」がきちんとした流れです。できれば「参画・協働」にしたいが、分科会のテーマが「協働・参画」なので直せないということでした。

：最終的には編集部会で決めるので、主張すべきは主張した方がいいと思う。そこでだめならだめで仕方がない。

：最初の段階は区からのものだが、参加、参画、協働でいいものを区民会議がつくっていこう、新宿を熱く語り、考え、論議した結果、参画・協働という定義をもって、「参画・協働」で進めていきたいと思う。宜しくお願いいたします。

：今日、ご指摘いただいた部分は起草委員で趣旨を捉えて修正して、運営委員会、編集部会へ持ち寄り、一任する形でよろしいですか。よろしく申し上げます。

《コミュニティ》配布資料

：それでは、次はコミュニティの鈴木委員、お願いします。

：鈴木です。お手元の資料にて、ご説明させていただきます。右の方に、「削除」とありますが、これは点線で結んであるものが修正加筆してあるということです。コミュニティは、近所同士の助け合いというのが一般的なイメージと思うので、形容加筆しました。

現状認識のところ、2行目の「連帯意識を醸成することが難しい」とあったのを、「日本とりわけ新宿では希薄である」と変えました。「近隣コミュニティの崩壊が感じられる」とソフトな表現にしていたが、「崩壊が始まっている」と言い切りにしました。2ページ、「時代のニーズに応えられず」とあったのを、「住民の時代の意識に対応できず」としました。で「人的コミュニティ」とあったのを、何を言っているのかわからなくなったので削除。「区民が参加するための情報」は、よくよく見ると区はあらゆる所に情報を置いている。議事録も全部載っているのに、情報を区側は既に発信していると言われないように、「わかりやすい情報を」としました。「簡単に活動できる場などが不足している」とありますが、地域センターなどがあるので、これ以上は言えない。では、簡単に確保できますか？例えば、電話一本で。複雑に手続きがあって、これは簡単ではないということ。「町内会とマンション住民との交流が不足している」とありましたが、ここは「不足しており、双方からの不満の声が多い」としました。これは、起草の関係で町会連合会幹部にお会いし、町連としても皆様、既に多大な努力をされています。マンション側から、不満がありますが、町連側もいろいろとお願いして回っているということでした。しかし、半分はオートロックでいない。双方の言い分があり、どちらのせいというのはないので、双方からの不満の声が大きいと表現を変えました。2ページ下段、「普通の区民の目線でより多くの区民が集う」としました。少数ではだめ、一人でも多くが集まるのが大切。3ページ、高齢者のマンション住まいが多く、安心安全なまち新宿と掲げていますが、毎月数件の孤独死が発見され、団地のボランティアの方がそれを見取っているというのが現状のようです。孤独死を「減らす」でなく、「なくす」とします。終段に、改めて「抜本的な周知徹底できる広報活動の見直し」を入れることにしました。原案は、「不断の努力」云々と書いてあるが、「継続した不断の努力で」とし、さらに力点を置きました。4ページ中段、改めて普通の区民での目線で普通の区民がコミュニティ活動参画への一步を踏み出す具体策の検討で、以前も使いましたが今回もこの図を挿入しました。コミュニケーション、コミュニティ、参画・協働、自治制度ということで、ここに大きな壁がある。これをいかに取り払うかが頭の使い所で、知恵と工夫が必要です。参加型社会と考えると、上に行けば行くほど成熟度大ということで、我々が目指す都市型コミュニティのスタンスを示すようにしました。5ページですが、ここもくどく広く地域関係者。先程、地区協議会とありましたが、地区協議

会のHPを覗くと誰でも気軽に来てくださいます。しかし、そのような所へ誰でも気軽に誰も行きっこない。「来てください」とだけでは努力不足で、ここにも普通の区民をとということで書きました。6ページで、団塊の世代に地域活動を促すべく書きました。コミュニティマネジメントリーダーとしたのですが、リーダーと付くのは良くないと考え、また無から有を生み出すということからコミュニティプロデューサーという言葉を考えました。中段の活動拠点について、地域センターとかいろいろある、地域センターは大人しか行きません。図書館は地域の一員として考える子どもたちも行くので重要だと思います。何かご意見を賜ればと思います。

：4ページの住民の著しく変化する意識とあるが、学識の先生方ご意見頂ければと思いますが、語呂が悪いのでないか。

：趣旨は変わらないので、皆様に浸透しやすい表現に変えて頂ければ。

：著しく多様化する現代の住民意識とか。

：では、著しく多様化する現代の住民意識とします。4ページに絵を描きましたが、コミュニティがないと協働・参画も自治制度もない。

：1ページの現状把握で「日本とりわけいろいろな人々が暮らしている新宿」という所で、“多文化で共生していこう”としている第6分科会が、あえて国を捉えるのは差別的ではないか。日本とりわけというのが、日本とそれ以外のいろいろな人が住むという感じなので。

：前にも話したが、大変難しいことをやろうとしているので正確な現状把握が大切。ただ多様な人々と言うだけでは物足りないので、「とりわけ」と付け足した。新宿区は非常に難しい。多文化共生、学校もあって、こういう区はなかなかない。目指す所は、住民自治で、正念入れてやらないと途中でただの住民お遊びネットになってしまう。ここで平均的な日本というよりは、新宿区は大変難しいという現状認識を明確にするため、このような修飾語をつけた。どちらがよろしいでしょうか。

：先程、欧米ではという言葉に対して、「日本では」と書き込まれたとあったが、ボランティア活動で醸成される欧米と、そこまで達していない日本の現状とその中の新宿という2つの要素が入っていると思う。ここで文章をボランティアに関する欧米と日本の比較と鈴木委員が言われる想いととの2つにないと、今のような誤解が生まれるのではないかなという印象を受けました。

：そうすると比較的元の文章に戻る。繰り返しになるが、大変難しいことをしようとしています。住民意識のないところに、活動時間や国籍が違う人々とコミュニティをやるというのは本当に難しく、そういう本当の人間を育成しないと単純な片手間ではコミュニティなんてできない。これまで地域を担ってきた町会も困っているし、マンションの人々も困っている。相当力を入れないと難しいということ、言いたかった。

：日本人のボランティア活動は、非常に推進しにくいもの。日本人の方が、自分本位で他人のことはそっぽ向いてしまうことが多い。ここであえて日本とりわけ多様な人々が住む新宿というようにボルテージを上げていくのはどうなのかと思う。私たちは、地

域コミュニティの方が成りにくいのでということをよく含んでください。

：5ページ、と。コミュニティを、こういう形で明文化してよいのかということ。正直、私としては非常に違和感があり、これは今、教育問題でもやっている愛国心に通じるものと思う。表面的にいくら愛国心をもっていますと声高に言っても、果たして本当にそのひとが愛国心を持っているとは限らない。同様に、コミュニティも明文化していくと小さな歪が大きくなりかねない。もう1点、もっと早くから指摘すればよかったのだが、統計から見た新宿区というところの。約7割の住民が定住意向であることから、区政への関心や区への愛着が窺えるとあるが、このつながりが分かりません。

：私はつながると思う。「ここに住みたい」と思うと、もっとこの地をよくしたいなと思うのかなと。住みたくない人は、サラリーマンの単身赴任で、ここに1年くらいだからというように、住民票も移さないで任期が切れれば帰る。住みたいと思えば、悪いところがあれば、良くしたいと思うことにつながると思いました。

：区政というのは俗にいう投票行動につながるものだと認識していますか。それとも、自治体活動に関してですか？

：自治体活動ですが、投票行動にもつながると思います。区政に関して全てです。

：現在、投票率は40%くらいですね。

：それは、改善すべき点ですけどね。

：なので、文章にすると少々短絡的かなと感じました。

：根本的なことを疑問に思っている。「都市型コミュニティに向けての創造」で、キーワードは「都市型コミュニティ」ということですが、それがどういうものなのかを対極的に表すものがあった方がいいのかと思いました。現状認識が、それをまとめているところなのかなと思っていました。新宿の都市型コミュニティは、誰がメンバーとして並べられるのかと考えたときに、都市型コミュニティとそうでないものの違いは何なのか。現状認識には書かれていないもの、血縁から生まれるものが薄いということ、その代わりに入ってきているのが職場のつながり、またはそれに関連するコミュニティがあると思う。その分、仕事関連に費やす時間も多くなり、いわゆる生活関連の町会というものの活動が抑えられている世代もあると思う。そういうところも、コミュニティのどこかで検討されていたら嬉しいのですが、いかがでしょうか？

：「新しい都市型コミュニティ」は、新しいと言っても10年前には新宿区は都市型コミュニティという言葉は明確に使っていません。10年ぶりに復活して新しいとなりました。しかし、変異はどこにもない。ご指摘の通り、プロセスの中で我々がこんなものと思ってきたものの大きなバックボーンは、多様化した人々ということになる。なぜ、このようなことを言うのかは、例えば、三重県は第1次産業も第2次産業もあるが、新宿区には第1も2もなく、第3もなくなりつつ、第4次産業が生まれつつある状況。従来とは非常に違ったものをやらないとだめと思う。あとで学識の方にお聞きします。

：簡単に考えるなら、農村を思い浮かべ、住んでいる人も含め農村がどのように運営しているかを考えると、都市とは社会の構造が全然違います。そういうところから考え

ると理解が早いかなと思います。

：産業構造を話して頂ければ、自ずと出てくると思う。現状1は、何も都市に限ったことではない。全国的に近隣との関係の希薄さから様々な事件が起きていると言われていくらい。もっと都市型コミュニティを突き詰めて考えてもいいと思いました。

：先程、新宿区民の7割が定住志向とあったが、私は新宿に40年住み続けています。こんなことを言うと拍子抜けしてしまいますが、別に新宿区政がいいから住んでいるわけでは全くない。ここに住むのは自分の利便性です。新宿区政がいいから、新宿に住んでいるという方は、ほとんどいらっしやらないのではないか。この文章が苦しいという意見があったが、私も苦しいと思いました。

：意識調査によると、必ずしも区政がいいとは思っていない。買い物が便利とか、そういう利便性をうたっている。しかし、利便性だって都市にはないところもある訳です。利便性を新宿の特徴と捉えるならば、区政に関心が無くても、定着してくれるなら、税収が維持できるので、それはそれでいい。原点は、新宿への愛着。これがなければ、関心もないので、ポイントは新宿に愛着を持つということを表現しています。

：土屋先生と始まる前に、都市型コミュニティについての定義があるが、少し触れ方が甘いのではと話していた所です。これは、非常に良い問題意識です。都市型コミュニティと銘打っているのに、ただのコミュニティと何が違うのと。いみじくも農村型、都市型という議論がありましたが、これも大きな意味ではあっています。1960年代以降に日本は高度経済成長期を迎え、農村：都市が8：2だったのが、80年代を迎える前頃から人口構成が逆転し始め、産業と共に人口変動が起きました。では都市とは何なのか？都市型の前に、都市化というのがある。都市化から都市型または都市化から都市の成熟と言われるので、都市型は都市の成熟とリンクしている。60年、70年代は高度経済成長からオイルショックで頭打ちされ、一度、地方の時代と呼ばれ、都市から人が地方へ戻ったが、大きな流れとしては60年代から都市に人々が流入した。

団塊世代が就職列車に乗って、都市へ移動してきて、都市近郊の整備で都市型社会ができてきた。だから、いつから都市型かとかいう議論がありますが、コミュニティの問題だけで言うと都市型の特徴が見え隠れしている。近隣の関係が疎遠とか、高層住宅に住んでいる人と在来型の住宅に元々住み、しかも長く住んでいる方との間に摩擦があるとか問題を生み出しているのが、まさに都市型の所以であると考えていいと思う。地域の中でのコミュニティで、地縁型と血縁型の利害理念、そして機能理念。ここでボランティアとかが出てくるが、そう言われる中で自治会・町内会は地縁。それだけではなく、人のつながりは機能によるものもある。そういう中で、地区協議会でも自治会・町内会の人だけに任せておくわけにはいかなくなる。もちろん、そういった方々も必要ですが。新しく機能でつながれた人々をどうするか。例えば、在学、在勤、在活动なんて言います。この機能関係をどうコミュニティに入れていくか、都市社会学として都市型、都市の成熟とは何なのか、その中での人間関係はどうか問われている。人間関係が阻害されているとか様々な問題を抱えている。これを、同じ都市に住む人同士がどのように克

服してゆくかという中で、新しい都市型コミュニティの見直しがされているわけです。

今ざっと申し上げたことに関して、文献をお読みになると、先程、図書館が重要だと話していらしたが、一般知識でわかる範囲で構いません。お読みになって、まとめて、もう一度ご自分のレポートを見直されるとよいと思います。十分に都市型コミュニティは理解されてますが、明確に把握しておく必要があると思うので、ぜひお願いします。

：都市型コミュニティの最終的な目的ということで、明確に地縁コミュニティ、もう一つの知縁コミュニティ、地域コミュニティ、大事になってきたオフィスコミュニティ、これらは年齢差やライフステージの差で起こるコミュニティもあると思う。コミュニティの明確化をした上で、都市型コミュニティがどこに分類されるか。最終的に都市型コミュニティに何が必要かという、地域コミュニティだと思う。都市型全てのコミュニティがあるが、それが地域安全、自治とかいろいろ関わっていくためには、都市型コミュニティで必要なのは地域コミュニティであって、その成熟していくことで、どのようにコミュニティを作っていくか、それが安全安心の時にどう対応できるのかが一番大切なことだと思います。そこにもっていくための分類も必要だし、性別、ライフステージの立て分けも必要。どんな目的のために、何が必要なのかと進めていく方がいいと思う。例えば、この前の福知山線の列車事故の時に、近くの会社が全てを投げ打って、トラックから何かを救助したことは会社のコミュニティができあがっていたから全ての対応ができたと思います。あそこは地域コミュニティが何もなかった所です。どんなコミュニティも成熟していれば、どんなことにも対応できるというように、集約していったらどうでしょうか。以上です。

：また整理します。福知山線のことはその通りです。将来のあるべき姿では、助け合いで、困った人がいたら、助け合う。これが地域の原点かと思う。5ページでは、コミュニティ活動を充実させ、地域に根ざした自治をつくるとしか表現していない。これはコミュニティは、ボランティアやNPOの雰囲気だし、あらゆる団体を横断してコミュニティは町内会だけではない。人が何か目的をもって集まったら、コミュニティ。ただ、そういう人たちに情報を発信して、困っている人を助けることはできないか相互のネットワークを張っていくことが大事だと思います。そういう意味で、ここには細かくは書いていません。これは活性化させれば、自ずと出て来るでしょう。この図にも描きましたが、コミュニケーションから壁を乗り越えて、コミュニティになろうよとなれば、ベターだなと。ご趣旨は全く同感です。

：今、地域が大事とあり、前に補完性の原理を申し上げたが、ヨーロッパの方でコミュニティが発達しているから出てきているのですが、まず自律という言葉。自分自身がちゃんと衣食住を自律して生きよう。人間はひとりでは生きられませんので、助け合う。家族でもそうです。しかし、都市の家族は社会化していると言われ、お金で買うことで社会に依存する形で生活する。個人や世帯では難しく、買えないものもある。それでもだめなもの、助け合う。例えば、先程のように事故や災害の問題です。近隣で助け合いきれないものは、もう少し広い区で、学校区とかですね。それでもだめなら、地区協

議会や区役所といった行政区間単位です。その次は、新宿区全体で考えましょう。広域自治体といった東京都で、首都圏で、国で、国際的に対応ということもある。こうして個人の自立から広がって、人々の生活の中で自律が模索されていく。そこで、新宿区では地区協議会が発足し、始まろうとしている。

：ここで言わんとするのは「多くの人が集まること」が大切であるということ。30万都市で集まるのが100人では、力になれない。還元される仕組みはお金とかそういうのではない。サポートを受ける側も、施しを受けるのを嫌がると思う。どういう仕組みの中での活動なのか伝えて、「参加者を増やすアイデアをください」と言いたいがために、このような表現になりました。

：防災会議では、自助、共助、公助という順番で危機管理室も言っている。これが皆さんに周知徹底されていない。まず地震が起きたら、自分の身は自分で3日間は守りましょうと、区広報でちゃんと出している。だから、それは自助です。しかし、このことが皆さんに理解されていない。

《自治制度》配付資料

：自治制度に関しては、今まで第3分科会の項目が3つ入っていましたが、完全に分離したので、新たに自治制度ということで書きました。希薄だったので、私と学識土屋先生で書きました。学識3人の先生方と話し合った結果です。

：高野リーダーからご説明があったように、第3分科会の部分を削除しました。あとは、先週、伊藤委員がツリーを配布したと思います。それを元に、将来あるべき姿を拡充すると共に、具体的な小項目を整理しました。（原稿読み上げ）

：6ページ、行政のところですが、第三者がこれを見たときに、素直に理解できるのかなと思いました。例えば、行政には相談の窓口はあっても、解決の窓口はないとか。

：現状と課題の部分に関しては、起草というより班別レポートがそうなので、私には直せないのですが、4班や高野リーダーに聞かないといけません。また、19ページから をくくったのですが、詰める時間がなかったので、ご意見を出して頂くと共に、何が言いたいのかを運営委員会、起草委員会で詰めていかなければならない。ぜひ、問題提起を他の班の方から、また4班、6班の方からはご説明あればお願いしたい。

：7ページ、マンション住民と連携が図れるように経営の仕組みからとありますが、あえて経営と言っている理由は？管理くらいで抑えてもいいのではないのでしょうか？

：もし、マンションを建てるなら、周辺住民への説明会が何度も開催されます。その時に、町会費の話もできます。

：ということは、もう、これはやっていることということですか？

：括弧の中が一番言いたいことかと思う。私の団地の場合は、掲示板は個人管理されていないので、そこまで踏み込んでいない。ただ管理会社が地域とのつながりとかで勝手にやっているだけなので、そこに踏み込む括弧なら経営よりは管理なのではないか。

：管理というのは、建てられたものを管理するだけで、ここに何を建てるとなったら

デベロッパーがきて、整備してということ。出来上がってから管理会社は決める。初めから管理の規約や契約書はできている。今は、作る前に話し合うことになっているので、管理の問題ではない。

：13ページ、このような問題で、昭和40年代に三多摩格差という議論がされ、区と多摩では格差があるので、どうするかという話になった。その意味で言うと、東京都に委嘱してとなっていると思うが、その後の事務の出向体制、要は新宿区がやるべき仕事と東京都がやるべき仕事をきちんと分けろいいのか、格差があっても、いいものと、そうでないものがあるのか、それを議論するのか。

：まだ23区は特別区扱いです。最高裁でも東京を健全な地方公共団体というのか否かは割れるところだと、3月に資料を配布した。ここで普通と言ったら、特別という文字が取れるということですが、東京都のように極めて人口密度が高く、都市化が進んでいる所は別です。

：興味ある仕組みを生み出すという段階で終わっているので、計画委員には公募を入れるとか、もう少し具体的に書くほうがいいと思う。12ページ、区職員は区民のみを採用することと言い切っているが、本当にいいのか。

：防災訓練で区長は区職員は30分以内に来ると言っていたが、おそらく来ない。だから来ないのを想定してマニュアルが作られているので、ここを突くのもいいと思う。

：では、一旦休憩します。

(再開)

《安全安心なまちづくり》配布資料

：それでは始めます。1ページ中段に「都内随一」の安全安心を誇れるまち新宿、と入れました。1ページの左の6行程度は課題へと移動。3ページの「社会的弱者」に対する災害時の協議がなされていないという事。また、5ページの は削除。6ページの左の を に変更。7ページの売春を「売買春」に変更しました。8ページの「他人に注意するとトラブルになる」に少し書き加えました。9ページの防災ソフト面ですが、小項目(名前は決まっていない)を入れました。10ページは修正して、 としました。 に社会的弱者と何度も使ってしつこいかなと思います。きめ細かい配慮から入れました。11ページの防犯ハード面を分けて、 をつけて、同じことを順番を変えて書いてあります。その後は順番を並び替えてありますが、内容はほぼ一緒です。そして、13ページの防犯ソフト面を削除しました。一番最後にある修正案を見ると分かりやすいと思います。15ページでは、最近子供の問題が多くて、みなさんから取り込んで欲しいということで、 を書きました。以上です。では、ご審議をお願いします。

：16ページの将来のあるべき姿で、個人的な希望ですが、例えば数字で(3)で「都内随一」とあるが、これがどのような程度か分からない。最近、警視庁が危険マップを出していて、新宿は総合ランキングで都内ランキングで22位でした。23位は江戸川区だったのですが、警察庁が出しているの、今の現状からみるとどうか。

：そうですが、18ページで「歌舞伎町及び西新宿の繁華街を抱える新宿は刑法犯認知件数において都内第3位と犯罪の件数が高く、薬物の汚染、売買春・不法滞在などが多発している」と現状の中に入れていますが、それを踏まえて、そういう風にならない新宿に変えたいと思って、一番初めにもって来ましたが、甘いでしょうか。

：それは分かったが、そこからどれくらい、都内随一というのは、ランキングにこだわるという訳ではないが、どれくらいが安全安心なまちとして評価できるのかと思う。

：一昨日、警察と話したが、少しずつ犯罪が減っているらしく、私の起草としては、言葉通り都内で一番がいい、理想では新宿が一番いいという所にしたいという思いで起草しました。「NO1」この言葉は中間発表のときの言葉を使わせてもらいました。

：10ページで「町内会」は町会別ということですか？町会別のマニュアルを作っても、マンションとか、そういう活動場所がたくさんあるので、逆に地域別としないと現状に合わない懸念する。

：「町会」が現時点でとても大切と、どこかに入れなければならないと思い、17ページののとおり、まずそこを入れないと始まらないと思いました。

：もはや、問題提起として地域別にマニュアルを作っている。

：区として防災を取り上げるのであれば、新宿は町会だけを頼りとしても間に合わない規模。今後10年先を言うならば、全てを包括したものでないと適用しない。町会は大変な組織とは思いますが、現状を考えると甘いので、防災についてもそれ以上のことを考えておく必要がある。地域とでも表現しておいたほうがいいのではと思います。

：今の件で各避難所についての防災マニュアル、東京都のものがあって、もっと細かいものを皆さんで作って自助努力をして下さいという新宿区の考えがある。防災会議も開かれているが、そこでも自助努力をしてください。町内会があれば、外国人のものも6段階ありましたから、ここは町内会と入れても入れなくても問題ないと思う。

：今10地区でマニュアルを作っている。しかし、昼かとか深夜とかいった体制は各地区でバラバラです。それが植木委員が言ったもので、それをもうちょっと小さくして町会単位でやればいいのかもしい。地域では出来ているけど、より町内会で細かくしてもいいかもしれない。

：町会では出来ていないのではなくて、把握できている町会は、きめ細かいものが出来ている。ただ、把握できない町会があり、そういう町会は出来ないのではなく、出来ないので難しい。予め小さい所でもあれば総合的に地域という風に大きい枠を作って総合的に作らないと「やっているよ、今頃何？」と、区民会議が知らない、区民会議に疑いが出るので、それぞれの時間帯にあった的確なマニュアルにすべきだと思う。

：後で検討します。町会は限定しすぎだということで、変更します。

：今思ったのですが、知っている人が知っていればいいという訳ではないですね。マニュアルは皆が知っていないと動けないということ。私は言い辛いが、国家公務員の住宅に住んでいて、200世帯ありますが町会に加入していません。そういうマニュアルを知りません。また備蓄もしていません。そういう現状で、知らなければ動きようがな

いので、マニュアルが存在しても上手くいくとは分からない。マニュアルとかを皆が知らないで上手くいかないで、その事を付け加えるほうが良いと思いました。

：ちょっと違うかもしれませんが、19ページ に入れてありますが、これで対応が出来ませんか？

：マンションが出来ても、そこだけ治外法権になっているのが多いではないですか。そのことを以前に語り合いましたが、その部分が足りなくて指摘されたのかと。その部分を入れるというのでいいですか。それを9ページの「区と区民の協働で、救護救援体制が・・・」に付け加えるということによろしいでしょうか？

：4ページの以下修正で「人々の責務である」とありますが、これは課題ですか。例えば、取り組みの方針の冒頭に記述して、責務だから取り組むという話ですよね。だから、置く場所が違いますね。5ページ と で、「連携が不十分」とあるが、何が問題なのかを書く必要がある。9ページの内容確認、防災指針なんて当然ある。改めて書くことで区から「見てないのか？」と言われてしまう。また、「社会的弱者」というのもある。10ページ で、「防災訓練を頻繁にする」とあるが、本当にお年寄りや障害者が頻繁に訓練していいのか。もう少し表現の工夫をした方がいい。 で「IT化を促進する」とあるが、年寄りや子供でITは嫌ですよという人はいる。断片的に書くのではなく社会的弱者に適合する方策を記述する必要がある。 は既にありあす。12ページ で「ブローケン・ザ・ウィンドウ理論」とあるが、これは日本にそぐわないと思う。「地域見守りたいを結成する」とあるが、地域見守り隊はすでにやっている。一番大きなところで、基本的に第6分科会は防犯がメイン。取り組みの方針で相変わらず災害の方向に進んでいて、防犯のところは3番目に出ているが、順序が違うのではないか。安全安心なまちづくりですから、順番を変えたほうが良いと思う。

：「ブローケン・ザ・ウィンドウ理論」について、この分科会では私が話したと思うので、ちょっと弁解します。先ほどこの理論が新宿には合わないとありましたが、私はそう思いません。これは簡単なこと。例えば、新宿はポイ捨て禁止条例を決めたのに、ポイ捨てがひどい。これを、一つ一つを各人が拾っていこうというのがこの理論。全然難しいことではない。自分が出来ないから違う話を持っていくのは良くないと思います。自分が出来ることは限られてしまう。まずはやってみましょうということ。

「地域見守り隊」の話がありましたが、正直に言って私は存じ上げません。ただ、私の働いている駅で「こども110ばん」というステッカーが貼られています。駅員さんに、何かあったら助けて下さいということです。今あるにしても、そういう活動をやっていくという姿勢を見せていくのは別に違和感はなく、むしろやるべきだと思う。お話の通り、「地域見守り隊」という言葉の使い方はおかしい。文言を変えて、全体で子供たちを見守っていくシステムを作ると変えたほうが良いと思う。

：10ページの「区は・・・」と書いてあるが、これは本当は区ではなくて地域が率先して区に要求すること。だから、何でも「区は・・・」とするのは良くない。あくまでも地域が率先していくという考えが良いと思います。

：10ページの「社会的弱者」の文言を「社会的弱者を配慮した・・・」とすればいいのではないのでしょうか。

：区のあるべき姿で「都内随一」というのはあまりにも言い過ぎではないか。奥多摩とかも含めますよね。この(1)に都市型コミュニティと書いてあるのだから、都市型コミュニティの中で言えば、いいのではと思います。

：私は「都内随一」というのは重要なことだと思う。これは都市型コミュニティではなく、例えば7ページの「防犯」というところで「匿名性の強い都市生活」とる。これからは匿名性の強い都市生活が魅力になっていく。理由は、お金を払えばいい管理が出来、その方が安心だと。その中でコミュニティを作っていかなければならないので、随一のというのは、「お金を払った危機管理ができるまち」それと、防犯・防災をきっちりやって、地域コミュニティと都市型コミュニティだけでなく、すべてを含んだ10年後が危機管理においても安全・安心、防犯においてもということ。コミュニティにおいても随一のコミュニティを作っていかなければならない。多文化共生でいろんな人種がいるから、目標として置いていくのは重要だと思う。

：先ほど「地域見守り隊がある」とありましたが、入れたほうがいいと提案することで違う。5ページの課題には、何が問題なのかとあったが、やはりボランティアの連帯がちゃんとまとまっていないのが問題。かつ、マンションの住民との旧住民とのコミュニケーションが大事だということで入れたが、あえて文章を付け足すとすると、さきほどコミュニティでも話していたとおり、マンション住民と旧住民とのコミュニケーションが出来ないというのが、安全安心なまちづくりにも非常に問題になってくると思う。

：言わんとしているのは例えば の文章を組み替えると「マンション住民と旧住民とのコミュニケーションが不足して防犯活動が出来ていない」というのが課題ということ。しかし、 のボランティアの連携が不十分であるとあるが、不十分により、何か危機が起きたときに連携が取れないとか、そこまで記述しないとイケない。「連携が不十分」だけだと問題提起だけではないかということです。

：分かりました。4ページの課題部分を元に戻したほうがいいならば戻します。

：一番最後の20ページで「取り組みの強化をする」を、「取り組みを強化する」に、また の「区は、子供を地域や学校と協働して見守る体制が・・・」を単に「区は、子供を地域や学校と協働して見守る」に変更して下さい。

：それでは、4ページの課題に入れた文章が課題テーマとしてはおかしいのではないかという話をどうすればいいのでしょうか。ご意見を頂けたらと思います。

：責務ではないとするから課題であって、責務であるとすれば課題でなくなる。

：では後にご意見頂くということによろしいですか。移動があったらお許してください。

：5ページ4行目の「また新たな組織としての地区協議会については、その認知度が低い」とあるが、これを書く必要はない。要するに、安全安心なまちづくりを作るところと、地区協議会というのはこの区民会議みたいな所なので、ここで地区協議会について述べないほうがいい。また、12ページの も必要ないと思います。

：みなさんのご意見がありましたから、そのまま入れたのであって、また考えます。

：この部分をKJ法でやった時には、まだ地区協議会が確立されていなく、今、地区協議会の中でもいろいろと問題がある。自分の地区では、各テーマを5つ入れて各町会長が1人ずつ入る仕組みにした。あるところは町会長が1人しか入れないところがあって、課題も1つも作らない。そうしたら、メンバーに企業のすごい人が入ってきて、学者とか要らないで、そういう人に聞けば、分からなければ部下に聞いてくれる。だから地区協議会というのは地域によってまだ不完全なので、その部分はある程度ちょっと言わなければならないところがあって、広報活動とかしたりしたほうがいいのではという意見が出てきた。

：あえてこのテーマの中でするのですか。

：言っていることが分かりました。自治制度に入れましょう。

：13ページで、驚いたのですが、カメラの監視もプライバシーの侵害で慎重であるべきだと思うので、このように出していくというのは問題だと思うが。

：実は、まちづくりのところで、警察に聞きに言ったのですが、警察は結局教えてくれませんでした。でも、警察が管理している。大体、分からないところに入っている。だから今のは問題ではないのだけれど。

：だから、問題は「隔々に設置し」ということ。

：では、「隔々」という文言を消したほうがいいのでしょうか、それとも全部消したほうがいいのでしょうか。これは、意見として何個か出ていたのでここに記述しました。

：「必要に応じて」と入れたらどうでしょうか。

：そうですね。「必要に応じて」を入れたいと思います。よろしいでしょうか。

《多文化共生》配布資料：

：それでは「外国人と共生する豊かなまちづくり(多文化共生)」を説明します。まず、3ページ。(5)その他の課題の中で に下線が引いてありますが、原文では「何かを創りあげていくことが必要ではないか」とありましたが、この何かを具体的にすることで、「多文化共生社会」が必要ではないかと修正しました。続きまして、5ページの前案で、前回この について意味が分かりづらいというご指摘がありましたので、【修正案1】と【修正案2】を作成しました。まず原案を分けたものとして【修正案1】と としました。 を設けたことで、修正案のタイトルに「(仮)多文化共生社会推進会議の設置と外国人の人権の尊重」としました。次に、【修正案2】ですが、原案に補足説明を付け足したものです。【修正案1】と【修正案2】には大きな違いはありません。前回ご指摘のあったものはこれだけなのですが。

：私は修正案2の方がいいと思う。一点だけ「外国人二世」となっていますが、二世、三世という言い方がいいのではないかと。

：実は、外国人二世と三世、四世という捉え方に若干違いがあり、三世四世というのは在日コリアンの方に特定され、ここで表現されている二世というのは、近年日本にい

らした外国人のお子様をイメージしています。前回、説明したとおり、今小中学校に子供がいる世代という人です。ご指摘の通り三世四世というのがありますが、

：「二世」というのを取ったら問題なのか。

：なかなか難しいところ。補足説明をする形でよろしいでしょうか。

：20年後の新宿区を担う子供たちを育成するために、とありますが、子供たちは溶け込んでしまう。親が問題です。私は修正案1の、 を作ったことはとてもいいことだと思う。例えば、「代表者会議を設置し」とありますが、その代表者はどうやって選ぶのか、親同士が融合したりコミュニケーションが問題なので、修正案1とした方が難しさが無いと思い、 、 には何かを足すというのがいいかなと思う。これからの取り組みとして色々な問題が起こるので、そのような言い方が言いと思います。

：皆さんから、ご意見を頂きましたが、まず【修正案2】について補足させて頂きます。その後【修正案1】について 、 のままという意見の他にありますか？

：改めて から を見てみると、 が分けられたら、 と はかぶるように思えるが。

： は主体として子供なので直接かぶるわけではないが、関連するということで。

： で「共に協議に臨むことを図るため」とあるが、これは何の協議なのでしょう？

： で原文では、協議に臨むことを図ると書いてあり、代表者会議という内容も含めてここに「(仮)多文化共生社会推進会議」と記述しました。

：例えば、共に共生していくことを推進していくため協議に臨むというのであればいいが、これだと何だか分からない文章なので文章をもう少しきちっとしたらい。

：分かりました。他にご意見はありますか？

：修正案で「(仮)多文化共生社会推進会議」とあるが、これはどこから持ってきた言葉なのでしょう？

：もともとの原案の代表者会議という言葉があったが、それを説明するものとして、今まで検討してきたところから導き出してきた言葉です。

：簡単にこのような言葉を出していいのでしょうか。

：今のご指摘についてありますか。

：目的を明確にして、分けていけばいいのではないか。

：今の修正案について、まずここで目的を明確にするというご指摘、また名称については削除するという方向でよろしいでしょうか。方向性としてどちらの修正案がよろしいでしょうか？

：この部分は運営委員、起草委員でまとめていくということでもよろしいでしょうか。では、それをお願いします。

：個人的で大変恐縮ですが、多文化共生を別の項目にした方がいいのでは、と言ってきた。多文化共生という言葉について、まるでありがたい言葉のように言っていますが、地域社会に外国人が入ってきて混乱が起こっている。各地域で外国人の学び方について差があると思うが、この町は多文化共生という名前では済まないと思っている。多文化共生というきれいごとで10年後がうまくいかないと思う。せっかくの区民会議なの

で、綺麗ごとではなく、多文化共生という名前を取ってもらいたい。間違っははいませんが、外国人と共生という言葉をやめて、「地域国際化（問題状況）への対応」とでも変えて「豊かな」はいらなと言ったが、私がこのような案を言っても検討されない。「外国人の人権の尊重」とあるが、まるで尊重していないような、または過去の歴史的事実についてこの区民会議で言い訳をしているような感じです。「地域国際化（問題状況）への対応」について考える。それによって、10年後がどうなるのかならないのか、また、外国人とのトラブルを考える。理想的だとは思いますが、時間がないので、限りなくこのペーパーには問題があるということです。

：入江委員からワーキンググループについての報告です。

：昨日ワーキンググループの話し合いをしました。6月25日が最終提言だと思っておりますが、井深大記念ホールでやります、最初にみんなで集まった所です。第1部で小宮委員が区民を代表して挨拶をしますが、その後に各分科会が発表するという形になりました。中身の発表だけでなく、これまでの思い、実感などを15分以内で発表します。発表者を決めなければなりません。第2部では、先生方からのコメントに変わりました。第3部で懇親会を設けたいということでした。メイン会場とは別の早稲田大学でのどこかでやりたいと思います。詳細は配布されます。会費は2千円くらいです。それで、発表者を決めなければならないので、どなたかよろしく願います。そして、受付を2名、会場係を合わせて3名願います。細かい日時は郵送されますが、1時始まりですが、10分前には着席していただきたいと思います。区長に提言を出した後に、分科会ごとに集合写真を撮ります。第6分科会は最後だと思うので、案内があるまでは、待ってください。最後、提言を出した後、エンディングロールがスクリーンに流れますが、ここで名前を載せないでほしいという人がいれば教えてくださいということです。発表者の方には6月14日までに内容を事務局に送り、6月16日がワーキンググループの最後の日なので、この日にも出席していただきたいと思います。急なのですが、誰か発表して頂ける方はいませんか？また、受付や会場も願います。

：発表者の決定はこの場では難しいようなので、運営委員会で決めさせていただきます。

：「新宿区民会議アンケート調査へのお願い」について、この区民会議、精力的な意見によって、まとまろうとしています。この取り組みは日本でもかなりすごい事と思う。社会をより良くしようと消費者の期待が高まっているわけですが、自身の中で参加をどうするかというのが大きな課題です。次回6月3日の区民会議終了後10分程度を使って、今までの取り組みについての評価、参加者の年齢層などを20項目ぐらい伺いたい。独自の研究者の方と合同で個人的にやっていて、事務局とは全く関係ないが、ここで得られた情報は新宿区に還元したいと思いますので、よろしく願います。個人情報保護に関して、アンケートで年齢や性別を問うところはありますが、個人を識別できるような項目は一切ありません。また、お答え頂いた事を公表するようなことも一切ございません。公開は、統計的なものだけです。

さて、基本構想審議会に分科会として、どなたか推薦しなければならないのですが、

学識としてはリーダーの高野委員にお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

(拍手)

：では、よろしくお願いします。

：事務連絡ですが、6月2日までに案内とかを一斉に送ります。提言書にも区民委員の方の名前を入れるので、それも入れていいかどうかをお知らせするものも一緒に送ります。また、名札なのですが、名刺みたいなカードで配りましたよね。全然使っていませんが。6月25日にもそのカードを使おうということになり、他の分科会では名刺入れというものを使っているのですが。第6分科会は、シールになるかとも思います。

：それでは今日の分科会を終わります。この後、起草委員と運営委員は残っていただきます。それでは、ありがとうございました。

< 次回日程 >

- ・ 6月 3日(土) 13時～16時 新宿区役所第一分庁舎 研修室
- ・ 6月17日(土) 13時～ 新宿区役所第一分庁舎 研修室